

Sankka

讃歌
創刊号

京都九条病院 Communication Book

創刊記念特別寄稿 京都九条病院 院長 山木垂水
学んだのは音楽からでした。

創刊記念特別寄稿 医療法人同仁会 理事長 松井道宣

太陽の国「スペイン」で感じたこと。

同仁会グループのご紹介

さらなる医療サービスの向上を目指して。

高度先進医療システムのご紹介

先進医療を積極的に導入し、高度で確かな医療体制を実現。

「コミュニケーション広場」

知ってよかった「お薬豆知識」講座

健康は毎日の食事から「医食同源」講座

ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ

私の病院自慢あれこれ

京都九条病院 院界隈のご紹介

京都九条の散歩道



Dr. Matsui



Dr. Yamaki

vol.1
2005 Spring
創刊号

学んだのは、音楽からでした。





京都九条病院は、最先端設備と優秀なスタッフを揃えた地域の中核病院であるとともに、急性期医療の分野ではパイオニア的病院として高い評価を得ています。この10年の歩みを土台とし、さらなる医療サービスの充実を目指します。



Special Message
創刊記念特別寄稿

医療法人同仁会 京都九条病院 院長

山木 垂水

Tarumi Yamaki

音楽は、私にとって大切なことを教えてくれる師。
美しい楽曲のような医療サービスが、人の心を励ますことを、
音楽は教えてくれました。



私の趣味はホルンを吹くことです。ホルンをご存知ですか。角笛のような音を出す渦巻き形の金管楽器です。出合ったのは約40年前。以来、中学、高校、大学と吹き続け、医者になつてからもアマチュアオーケストラですつと演奏してきました。大学時代、その当時としては珍しく、プロの個人レッスンを受けるほどのめり込みました。でも、そんな大好きなホルンをやめようとしたことがあります。オーケストラには若い上手な人が次々入ってきて、どんどん演奏レベルが上がっていく。思うような演奏ができない自分にいらだつて、こんな shouldn't 思いをしてまで続けることはないじゃないかと。そんな時、たまたま母校、洛星中・高等学校の創立50周年の式典で、ベートーベンの第九交響曲を演奏することにになりました。あの年末恒例1万人の大合唱で知られて

いる大曲です。そこで、全国に散らばったオーケストラ部のOBをかき集め、合唱には現役学生やOB、その家族にも参加してもらつたことになりました。年齢も仕事も住んでいる場所もてんでばらばら。なかにはフランス在住の方もいました。そんな大人数の参加者が一堂に集まって練習を重ねること20回以上。それぞれが時間をやりくりし、さまざまなることを犠牲にして打ち込んだ1年でした。そして迎えた本番。アマチュアとは思えないほど、すばらしい演奏ができました。ホルンという響きに響き渡る力強いオーケストラの音、それに呼応する美しいコーラスの歌声。みんなの心が一つになっていました。万雷の拍手を聞きながら、ああこれだ、この心を奮い立たせるほどの感動こそ音楽なんだ。こんなすばらしいものを自分はやってきたんだ。生きている喜びが自分の心の中からわき上がってくるのを感じました。やめようという気持ちはすっかり失せていました。

京都九条病院の基本理念 OUR HOSPITAL CONCEPT

良質な医療を安定的に提供すること。
さらに常に最大限最高の医療の提供を目指す
前向きな姿勢を維持すること。

京都九条病院で働く人の精神 OUR HOSPITAL WORKING SPIRIT

常に公平、公正なより良い医療を提供するために、
「奉仕の精神」をもち、病院に関わる
すべての人が一体となって「人々の健康」に貢献します。

張するところは主張し、従うところは従い、ひとつの目標のために協力し合う。病院というのは、オーケストラと似ています。医者、看護師、検査技師など、各スタッフそれぞれが責任を持って自分の役割を果たし、緊密に連携し、協調しなければ、よい医療サービスが行えないからです。名指揮者に習って各スタッフの「ハーモニー」を響かせ、生きる勇気が湧いてくるようなあたためた心のもった医療サービスを提供する患者さんに届けたいと思っています。

Special Message

創刊記念特別寄稿

医療法人同仁会 理事長

松井 道宣

Michinori Matsui

メンタルな部分を重視し、心のこもった医療サービスを提供する。
「予防医療」を基本とした「トータルヘルスケア」によって、
人々の健康をサポートしたい。それが私たちの目標です。



2004年10月にオープンしたメディカルフィットネスクラブ「SHIN-SHIN」の受付カウンターには、このシンボルマークを掲げました。

スペインを訪れたのはちょうど二年前の春。マドリドの公園で、私はあるマークと出会い、強いインスピレーションを受けました。まるで何かの啓示のように、それは目に飛び込んできたのです。太陽が正面を向いた顔と横を向いた顔を重ねて二つにしたようなデザインは、光の当たっている顔と陰になった顔、陰と陽、心と身体の関係を表しているように感じ、これは同仁会がテーマとして掲げる「トータルヘルスケア」を象徴しているそう思いました。そしてこのマークを「トータルヘルスケア」の二環として、その時建設中だった「SHIN-SHIN」のシンボルマークのモチーフにしようと決めました。

ではその「トータルヘルスケア」とはどのようなものなのか。一つは、心と身体をトータルに捉え、表に現れた身体の症状を診るだけでなく、その裏に隠れているメンタルな部分も重視し、心のこもった医療サービスを提供することです。『北風と太陽』というイソップの童話をご存知でしょうか。これまでの医療では、医者がこうしなさい、こうしないと治らないですよと指導する、いわば力づくで上着を脱がせる北風のようないやうなやり方が一般的でした。しかし本来、医療というのは、太陽のよ

うにあたたかい包容力で患者さんの心を開かせ、その信頼関係に基づいて行われるものでしょう。私たちは、こうした考えに基づいて、患者さんとのコミュニケーションを大切に、患者さんの心に添ったやさしい医療を目指しています。スペインで出会い、イソップの童話にも出てくる太陽のような私たちのシンボルマークは、これからの同仁会の進むべき道を示してくれているように思っています。

これまで私たちは、急性期医療をリードしてきました。しかし、この10年間の医療活動を通して、患者さんが病気になるまで治療を受



けに「られるのを待つ」という受け身の医療でいいのか、と疑問を感じるようになってきました。一度治療した患者さんがもうと重い病気になって再び運ばれてきてしまう、いつの間にか寝たきりになっておられる、という現実を目の当たりにして、そのたびに悔しい思いをしたからです。退院される時には、「こういうことに気を付けてください」と注意をして患者さんを送り出すのですが、それがきちんと実行されていない。こうしたことから本当に治療効果上がる形での予防医療の提供を目指すことにしたのです。

私たちは、急性期医療を担う「京都九条病院」を中心に、「同仁会クリック」、「SHIN-SHIN」、「ママフロラ」、「ママクオレ」と連携して、「トータルヘルスケア」を展開し、人々が健康で、尊厳を持って人生を全うできるようにお手伝いしていきたいと思っています。



太陽の国「スペイン」で感じたこと。



さらなる医療サービスの向上を目指して。



救急患者さんを医師全員で出迎える。
これが私たちの基本です。

Junkei Matsui
京都九条病院副院長
松井淳琪(まついじゅんき)

京都九条病院は急性期医療のなかでもとくに救急に対して意識した医療体制をつくってきた特殊な病院です。病院全体が救急に対応できる体制となっていて救急専門医が4名います。ちょうどお腹が痛い、熱が出たといった救急から高度な手術を必要とする二次救急まで対応できる幅の広さと専門技術のレベルの高さ、両方を兼ね備えた病院はそう多くはありません。これは誇りに感じることだと思っています。

この病院には、救急で運ばれてきた患者さんの容体を知らないスタッフはいませんが、救

急専門医と救急医療施設において救急部門の専従医として5年以上携わった者
また症例についての手術経験が十分に積んだ医師に対して日本救急医学会が認定する救急士資格

急車が来ると必ず患者さんを医師全員で出迎え、診察し最初の処置を行う。病状が確定した段階で専門医に任せるといふシステムをとっているからです。さらに、全科の医師が集まってカンファレンスを行い、情報・知識を共有しています。こつとしたタフな全員の協力こそが重篤な病状の患者さんを救ってきたのです。その熱意と努力が実り、救急病院として、患者さんをはじめご家族、地域の方々から高い評価を受けるまでになりましたが、より信頼される病院を目指して今後も研鑽を重ねていきたいと思っています。

患者さんご家族、スタッフが共に満足できる看護サービスを目指して。

Shigeko Yokoo
京都九条病院看護部長・地域医療部長
横尾重子(よこおしげ子)

私たちが目指しているのは、患者さん、患者さんのご家族、スタッフが共に満足できる看護サービスの提供です。そのために、まず心がけているのはやさしい心配りです。特に救急で来られる患者さんの場合、ご家族も気が動転しておられる方も多いため、その緊張を和らげるためにも、相手の心に寄り添い、親切丁寧に対応するようにしています。退院時にはアンケート用紙を配り、気がついたことを指摘していただくようにしていますが、「満足した」「親切にしてくれた」など、嬉しい評価をいただいています。ときには苦言もありませんが、すべて患者さんからの率直な意見として受け止め、改善するようにしています。また、院内でいくつもの研究・研修会を開き、全スタッフによる情報の共有化を進めると同時に看護師の知識・技術の向上に努めています。

これからは患者さんが安心して京都九条病院で医療を受けていただけるように、医療技術の高度化に対応できる高い専門性をもつ看護師の育成を進め、病気の予防や健康増進、訪問看護などの充実をさらに追究していきたいと考えています。



ひとりひとりの歴史に合わせて、
尊厳ある人生をサポート。

Hisano Uesaka
京都市在宅介護支援センター・京都九条病院課長
上坂久乃(うえさかひさの)

私たちの役割は、「自分の住み慣れた街、住み慣れた家で暮らしたい」という高齢者の方々の望みを叶えるため、適切なサービスを受けられるようサポートすること。「おかげでよいサービスが受けられて安心した」とか、「サービスがこんな楽しいことがあった」と笑顔で話してくださると、やりがいがあります。また、本格的な高齢化社会の到来を受けて、これからは地域全体でそこに暮らす高齢者の方を支えていくシステムづくりが急がれています。母体である京都九条病院と連携を図りながら、行政地域をつないで、高齢者が尊厳を持って安心して暮らせる街にしていきたいと思っています。

ケアプランを立てるときに基本としているのは、「ひとりひとりの歴史に合わせてこれからの人生をサポートし、生きる力を応援する」ということです。認知症の方も含めて、誰



豊かな自然環境の中で、 心も元気になれるリハビリテーションを。

Masao Konishi

介護老人保健施設マムクオーレ施設長
小西理雄（こにし まさお）

ここは何より環境がすばらしい。周辺には田畑が残り、すぐ裏手に広がる竹林からは心地よい葉ずれの音が聞こえてきます。高い天井、大きく開いた窓、広々としたリハビリ室や療養室と、郊外の立地的な空間で、ゆったりとのびのびと療養生活を送っていただけるのも、当施設ならではのメリットといえるでしょう。

当施設がグループ初めての介護老人保健施設としてオープンしてから約1年、「それぞれの人生を美しく咲かせたい」と思っています。



お母さんのような きめ細やかなケアを心がけています。

Zenshiro Onouchi

介護老人保健施設マムクオーレ施設長
尾内善四郎（おのち ぜんしろう）

当介護老人保健施設の大きな特徴は、街中にあることです。都会で暮らす方々に住み慣れた場所で療養生活を送っていただきたいと、この1月に開所いたしました。地域との繋がりが維持され、家族の訪問も受けやすい環境は、入所者の自立心を高め、家庭や地域社会へのよりスムーズな復帰を助けることにつながります。

施設の名「マムクオーレ」というのは、「お母さんの心」という意味です。私は以前特別養護老人施設の診療部長をしていたのですが、年配の入所者の方が夜、夢をこぼしているのか何か声を上げ

られることがありました。それがやはり「お母さん」という言葉なのです。人といつものは心細くなるとき、いくつになっても母親を求めているんです。私たちはこの名前に込められた心を大切に、入所者の方がマイホームのように安心してリハビリテーションに励むことができる環境、サービスを提供することにも、入所者とそのご家族が個別に具体的な介護方法を学ぶことができる介護教室を開くなどの活動を通して、ご家族や地域社会からも「母」のように信頼される施設に育てていきたいと考えています。

薬と運動・食事療法を組み合わせた 総合的な治療システムを提供。

Michihori Matsui

同仁会リハビリテーションセンター
松井道宣（まつい みちのり）

今日本で一番問題となっている糖尿病や動脈硬化、脳卒中といった生活習慣病は、投薬だけで治すことはできません。運動療法、食事療法を併せて行うこそ薬もより効果的に働き、治療効果も高まるのです。こうした生活習慣病の患者さんに、それぞれの段階に応じて薬と運動療法、食事療法をうまく組み合わせた総合的な治療システムを提供するのが同仁会クリニックです。同施設には、運動療法を実践していただくための「SHIN SHIN」高年齢者の方々の健康維持、増進のための「疾病予防研究所」を併設。科学的根拠に基づいてその人の体の状態に合わせた運動プログラムを組み合わせ、継続的に効果を検証することで大きな成果を上げています。さらに、予防医療の観点から、肥満や高血圧症など生活習慣病予備軍の人、健康を維持したい人、より健康になりたい人など幅広い方々にも同じシステムを提供、地域の方々の心身の健康をサポートしています。これから、日本は超高齢化社会に突入します。このクリニックを拠点に、予防医療の考え方を広め、浸透させていきたいと思っています。





今、革命が始まる

MAGNETOM

マグネトム アバント

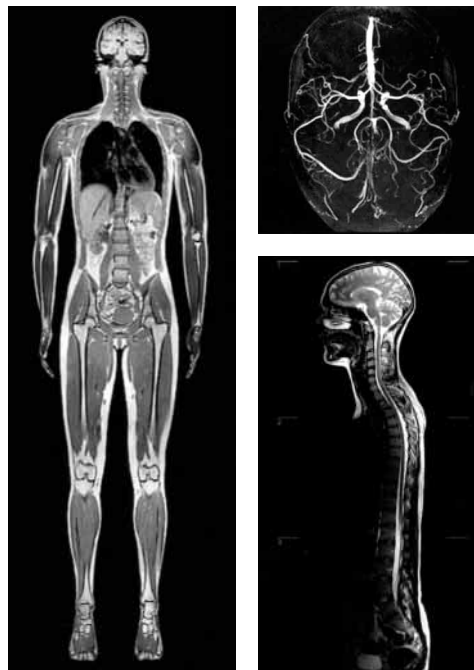
Avanto

人にやさしい、最新のシーメンス社製「次世代MRI」を導入しました。

当病院では、シーメンス旭メディック社「マグネトム アバント」を新たに導入しました。「マグネトム アバント」は、トータルイメージングマトリックス (Tim) という新技術を導入し、全身をつぎめなく高速撮影が可能です。必要な部位をすべて一連の検査で撮影することができるのです。従来のMRI撮影は撮影部位を変えるたびに、その都度専用コイルを装着しなおさなければならないという難点があり、時間と手間がかかっていました。しかし、Timの新技術により検査部位を選ぶだけ、ただ寝ているだけで全身の撮影が可能となったのです。

ほとんどの検査は足からガントリー内に入り、顔を外に出したままの状態ですので、圧迫感や不安を軽減します。もうひとつの大きな特徴は高速撮影が可能のため、緊急時にも対応でき、急性期医療で最も重要な「早期発見」「早期診断」「早期治療」に大きな威力を発揮するということです。極めて鮮明な全身の画像が得られるようになったため、癌や全身性疾患の検査はもちろん、予防目的の検査にも活躍しています。

「人にやさしい」この装置は、検査時間が早く、音も静かなので、患者さんの負担はぐっと軽くなりました。今まで以上に安心・快適に検査を受けていただけます。



マグネトム アバントの特徴

- 1 優れた環境性** ▶ 検査が楽に受けられます。
- 2 高精細な画質** ▶ 微小病変がより見やすくなりました。
- 3 短い検査時間** ▶ お年寄りの方でも安心です。
- 4 被爆の心配無用** ▶ 安心して検査が受けられます。

全身の撮影が可能です。

検査部位ごとのコイル交換が不要です。

音が静かになりました。(ヘッドホンなしでも検査が可能)

高速撮影により、息止めも楽になりました。

圧迫感が少なくなりました。



落ち着いた雰囲気の中で、
真にリラックスしながら検査をお受けいただけます。

検査室は心和む木目調のインテリアコーディネートを施し、
小鳥のさえずりや小川のせせらぎなどのBGMをご用意しています。



H HEALTH
for **M** EDICINE

知ってよかった「お薬豆知識」講座

講師:京都九条病院 薬局長
友沢 明徳
Akinori Tomozawa

杉花粉が大飛散。
用法を守って、
賢く花粉症対策を。



この春、京都の杉花粉の飛散量は昨年の1.0倍にもなると予想されています。聞いただけで鼻がムズムズしてくる方も多いのではないのでしょうか。

花粉症は体内に入ってきた花粉を異物として追い出すようとする反応が過剰になるためにおこるアレルギー疾患の一種。花粉が体に有害なものではないのに過剰な反応が起きるのは、免疫調節力が狂いが生じているためと考えられています。治療には、すでに起きている症状を薬で抑制する対症療法と、抗アレルギー薬によりアレルギーを起こす物質の放出を抑えたり、漢方薬によりアレルギー体質の改善を進める予防的治療法があり、当病院では患者さんの症状、体質に合わせてそれらを組み合わせた治療を行っています。

います。

市販の対症療法薬は抗アレルギー薬と血管収縮薬を組み合わせた製品が中心です。これらにはいろいろな症状を緩和するのに有効ですが、用いる際にはいくつかの注意が必要です。血管収縮薬は鼻づまりなどに即効性がありますが、使いすぎると効き目が悪くなり、中止後に症状が悪化する場合があります。抗アレルギー薬は点眼や点鼻でも眠気が現れることがあります。対症療法薬は症状がひどくなつてから使用しても効果不十分なことが多いので、軽いうちに確実に抑え込むことが重要です。長くても1週間効果がない



ければ薬を変えるか、医療機関の受診をおすすめします。

また、副作用だけでなく、薬どつしの飲み合わせにも注意が必要です。市販の薬も例外ではありません。服用中の薬や副作用・アレルギー歴があれば、ささいなことでも薬剤師に相談してから購入するようにしましょう。

花粉症対策は先手必勝。シーズン1〜2ヶ月前からの服薬が発症予防に有効といわれています。医療機関を受診して、ご自分に合った適切な薬を選んでもらうこと、そして用法をきちんと守って用いることが大切です。

H HEALTH
for **F**OOD

健康は毎日の食事から「医食同源」講座

講師:京都九条病院 管理栄養士
仁田 由美子
Yumiko Nitta



カルシウムを
たっぷり摂って、
骨粗鬆症を予防。



「高齢者が寝たきりになる原因の1つに骨粗鬆症があります。骨粗鬆症とは骨に鬆が入って骨がもろくなる病気。男女とも、骨量は20歳くらいをピークに加齢に従って次第に減少していきますが、とくに女性は閉経後にカルシウムの吸収を助ける女性ホルモンの分泌が少なくなるため、骨粗鬆症になる可能性が高いと言えます。」

「予防には若いときからカルシウムをしっかり摂ることが大切です。成人1日のカルシウム所要量は600ミリグラム。」

簡単に作れてカルシウムのたくさん摂れる、「白和え」を紹介します。ぜひ、食卓の二品に加えて下さいね。

それと、カルシウムをたくさん摂っても、それだけで骨が丈夫になるわけではありません。カルシウムの吸収を助け、骨の代謝をよくするためには、適度な運動と、適度な日光浴(夏場なら木陰で30分、冬場なら日向で1時間程度)が必要です。食事のあとは、散歩するなど外で軽く運動をするように心がけましょう。



白和えの作り方

材料(4人分)
(1人分のカルシウム量は約130ミリグラム)

- 木綿豆腐.....1/2丁
- ほうれん草.....1/3わ
- 人参.....20グラム
- 板こんにやく.....1/3枚
- 白ゴマ.....大さじ1杯半
- 砂糖.....大さじ1杯
- 味噌.....大さじ2杯

豆腐は軽く重石をしておき、水気をよく切る。

炒った白ゴマをすり鉢でよくすりつぶし、砂糖、味噌を加えて、さらに豆腐を加えて滑らかになるまですり混ぜる。

塩をひとつまみ入れた熱湯でほうれん草を茹で、水にとって水気を切り、2〜3ミリに切る。

人参は2〜3ミリの千切りにして茹でておく。

こんにやくは熱湯に通し、千切り切る。

そして を の「あえ衣」で和える。

FACE
of **D**OCTOR

ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ

京都九条病院 整形外科医師
加藤 勘明先生
Kammei Kato



野球は最高のリフレッシュ。
病院スタッフとの
チームワークもバツチリ。



ポジションはセカンド、打席は2番が定位置。ホームランよりコンツン当ててアウトを狙うタイプ、想からの応援ファン、試合にはもともとたくさんのおまけに球場に来て欲しいなあ。

僕の趣味は野球。京都九条病院のスタッフとチームを組んでいるほか、友人たちとの草野球チームなど4つに所属していて、シーズンに入ると毎月のように試合をしています。でも、まだやり足りないと言うのが実感。無性に体を動かしたくなると、バッティングセンターでフルスイングしているんですよ。

子供の時から野球は大好き。大学では6年間ずっと「野球部」に所属、ほとんど野球漬けのような学生生活でした。その甲斐あって、キャプテンだった4回生のときには西日本の医科大学43校が参加する大会で優勝したんですよ。整形外科医になったのも実は野球がきっかけ。子供の頃から、しばしば

捻挫をして整形外科のお世話になったのですが、その時に身近で仕事ぶりを見たことから興味を持ち、この科を選んだんです。

野球は僕にとって最高のリフレッシュであると同時に、部所が違うスタッフとの交流の機会を提供してくれるものでもあります。全員が一丸となって球を追いついて汗を流せば、自然と仲良くなって仕事の場での風通しもよくなるんですよ。とはいえ、京都九条病院の野球チームはまだまだ発展途上。願わくば練習時間を増やして、もっともっと強くなりたいですね。(笑)

LOVE
my **H**OSPITAL

私の病院自慢あれこれ

京都九条病院のいいところ、
こんなところがわたしたちの自慢です。
病院のここが好き!!

好きな言葉
favorite word
「努力」
寺井 誠さん
事務部 医事課



不安げな顔で駆け込んでこられた患者さんが、退院されるときは必ず笑顔で「ありがとう」と感謝して帰っていかれる。これは、皆さんが満足できる医療が提供できている証拠。そんな職場で働けることを誇りに思うと同時に、よし、もっといいサービスをしていくぞという気が湧いてきます。だから、病院全体には活気が溢れているんです。

将来はこの周辺が他地域の人から羨ましがられるような健康地区になるよう僕らも頑張りたいなと思っています。

好きな言葉
favorite word
「信頼」
松本 江美さん
リハビリテーション課 係長



ここでは、患者さん一人一人の背景を把握し、その個性を重視したリハビリのプログラムづくりをしています。強制するのではなく、その人にとって何がプラスなのかを考え、やる気の出るプログラムと一緒に作っていくので、皆さん回復も早いんですよ。

リハビリには豊富な知識や確かな技術はもちろん、それ以上に精神的なケアが大切。スタッフは笑顔、まなざし、コミュニケーションを心がけています。だから私たちの笑顔もいいでしょ。

好きな言葉
favorite word
「一期一会」
佐藤 麻衣子さん
看護部 3F病棟



何と言ってもスタッフ全員のチームワークの良さです。定期的に勉強会が持たれていて、スタッフ全員が患者さんの症状についてはもちろん、さまざまな疾患についての情報や知識を共有できているので、誰でも的確に対応できるし、コミュニケーション不足によるミスも生まれにくいと思います。

もちろん、皆仲がいいので何でも気軽に言い合えますし、病院中がそんな開かれた明るい雰囲気なので、患者さんも心を開いてくださるんですよ。

好きな言葉
favorite word
「チャレンジ」
鳥本 宏一さん
検査部 生理検査課 係長



患者さんを中心考えたチーム医療の体制が整っていること。例えば患者さんが入院される場合、さまざまな検査が必要ですが、皆で連携し、検査を一回で済ませられるようにしているんですよ。これも、課を越えた協力体制が整っているからこそできるサービスだと自負しています。

僕は私立病院協会の野球連盟の委員長ですが、会議や試合に出やすいよう皆が協力してくれる。楽しくクラブ活動ができる職場というのも自慢です。



高さ約57m、日本最大の五重塔は、京都の玄関口のシンボルともなっている。

京都九条の散歩道

「東寺」
Toji Temple

真言宗総本山
正式名称は「教王護国寺」。約1200年前、平安京遷都にもなつて国家鎮護のために都の南の入口である羅城門の東におか

京都九条病院あたりには、心とむ風情を醸す美しい京都の姿があります。さあ、あなたも出かけてみませんか。

れた官寺に始まる。のちに空海が譲り受けて真言密教の道場としたことから、大師信仰の寺として発展。いまも空海の祥月命日(毎月21日)には弘法さんと呼ばれる市がたち、境内には骨董や古着を扱う露店が1000軒

東寺

京都市南区九条町1
TEL / 075-691-3325(代)
拝観時間 / 3月20日～9月19日(8:30～17:30)
夏時間 / 9月20日～3月19日(8:30～16:30)
冬時間 /



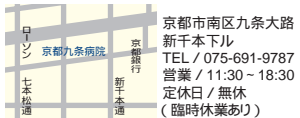
ほとんど出て参拝客で大いに賑わう。ちなみに、かつて門を挟んでこれと対をなしていた西寺はいつしか滅び、今はその遺跡が残るのみだ。境内には、日本の高さを誇る国宝、木造塔の五重塔をはじめ、金堂や大師堂、重要文化財の講堂など壮麗な堂塔が立ち並ぶ。これらは台風や兵火等の災害にうけて幾度も焼失したが、その都度もとの姿に再興されてきた。創建当時と同じ場所に往時のままの姿をとどめる東寺には、いまなお平安時代の面影が残り、訪れる人々を古の世界へと誘う。また、東寺には講堂に安置されている21体の仏像(立体曼荼羅)や9世紀に中国で作られたといわれる毘跋毘沙門天立像、両界曼荼羅図など、日本の仏教史を飾る重要な仏像や仏画も多く、仏教美術の観点からも見どころが多い。寺は1994年、世界文化遺産に登録された。

KYOTO ESPRIT WORLD



京ゆば料理 湯葉に

健康食品として近年人気の京ゆば。「湯葉に」では、その持ち味をあますところなく生かした湯葉づくし料理が食べられる。素材の湯葉は三代目の主人吉田源三さんと四代目の息子さんの手による自家製。産地の異なる大豆を絶妙の割合でブレンドしたこだわりの材料と軟水化した水、さらに、豆乳を加熱する熱源におがくずを用いることで、独特の「繊細で柔らかな風味」が引き出される。もちろん、仕込みから湯葉を一枚一枚引き上げるところまですべて昔ながらの手作業。厳選した材料と伝統の製法で作られる出来立ての生湯葉の味ははんなりとやさしく、心までヘルシーにしてくれる。



ゆば刺、吸物、炊合せ、和え物、油物の五品に香の物とご飯が付いた梅コース2940円。このコースは午後2時まで。



創業文政元年 茶匠 井六園

日本ではじめて煎茶ティーバッグや水出し茶を開発したのがここ、文政元年(1818)創業の老舗「井六園」だ。次々と新しいアイデアをうち出し、現代の生活様式にマッチした茶のスタイルを提案する一方、六波羅蜜寺に伝わる「大福茶」の風習を取り入れたたり、京都で飲み継がれてきた昔懐かしい京のお番茶を復元するなど、昔からの茶のよさを今に伝えるための商品作りにも力を注いでいる。そのスタンスの広さを反映して、店内に並ぶ商品はバラエティー豊か。パッケージのデザインも従来のお茶のイメージを覆すほどお洒落で、若い人にもお茶がぐっと親しみやすくなること請け合いの店だ。



店内には伝統的な京番茶から新たに開発された抹茶ドリンクまで、バラエティー豊かな商品が並ぶ。

医療法人同仁会(社団)
京都九条病院
〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町10
TEL / 075-691-7121(代)
http://www.kujohp.com

医療法人同仁会(社団)
**京都市在宅介護支援センター
京都九条病院**
〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町10
TEL / 075-691-7200

医療法人同仁会(社団)
**介護老人保健施設
マム フローラ**
〒617-0853 京都府長岡京市奥海印寺
奥/院25-2 TEL / 075-958-3388

医療法人同仁会(社団)
**介護老人保健施設
マム クオーレ**
〒601-8326 京都市南区吉祥院南落合町
40-3 TEL / 075-691-7755

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院
**訪問看護
ステーション・マム**
〒601-8453 京都市南区唐橋経田町16
TEL / 075-661-3820

医療法人同仁会(社団) 同仁会クリニック(併設)
同仁会疾病予防研究所
〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30
TEL / 075-691-5070

医療法人同仁会(社団)
同仁会クリニック
〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30
TEL / 075-691-7766

京都九条病院(提携)・同仁会クリニック(併設)
**メディカルフィットネスクラブ
SHIN-SHIN**
〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30
TEL / 0120-558-756